

# 開化参

## 映画文学人生論

3011) 露都雑記  
3012) 舞姫  
3013) 倫敦塔  
3014) あめりか物語  
3015) フランス便り

二葉亭四迷  
森鷗外  
夏目漱石  
永井荷風  
島崎藤村

西洋各国の都府は、もとより村落に至るまでも学校あらざる所なし

福沢諭吉は慶応二年刊の『西洋事情』で、「西洋各国の都府は、もとより村落に至るまでも学校あらざる所なし」と西洋を紹介し、明治維新後は『学問のすすめ』で日本人も西洋外国に負けないうよう学問にはげんで、脱亜入欧をすすめた。当時の日本が文明開化が遅れた未開の国のような印象を受ける。

ところが、『学問のすすめ』は日本人の一角が読むほどのベストセラーになったが、そもそもそんな本がベストセラーになったのは、もともと日本人が学問好きだったからだともいえる。

江戸時代においてもほとんどの藩では藩校や塾で若者たちは学問にはげみ、村落では子供たちが寺子屋で読み書きそろばんを習っていた。当時の国民の識字率では、おそらく日本人は世界でもっとも高い国だったのではなからうか。

ただし、鎖国をしていたために、軍事、科学技術、病院、蒸気機関、電信機などの面では西洋諸国に遅れをとっていた。

露都雑記

二葉亭四迷

舞姫

森鷗外

倫敦塔

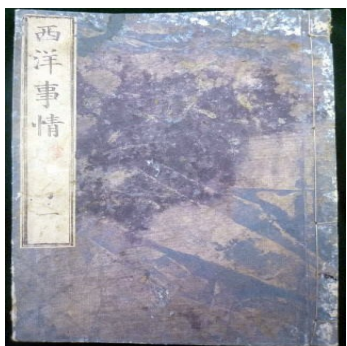
夏目漱石

あめりか物語

永井荷風

フランス便り

島崎藤村



## 開化参

映画文学人生論

明治の文豪と称される五人の文学者の作品を読んでみたが、軍事や科学技術の面ではまったく参考にならない。福沢諭吉がすすめる学問は実学だが、明治以後の文学は実学ではなくなっている。とはいえ、二葉亭四迷には「文学は男子一生の仕事にあらず」という認識があった。

夏目漱石には「僕は一面に於て俳諧的文学に入すると同時に一面に於て死ぬか生きるか、命のやりとりをする様な維新の志士の如き烈しい精神で文学をやつて見たい」という気概があった。

森鷗外は、本職の医学で軍医として日清戦争出征し、陸軍軍医総監にもなって国家に貢献した。

永井荷風は、明治四十三年の大逆事件の際、「日本はアメリカの個人尊重もフランスの伝統遵守もなしに上辺の西化に専心し、体制派は、逆らう市民を迫害している。ドレフュス事件を糾弾したゾラの勇気がなければ、戯作者に身をおとすしかない」と考えて、戯作者に身をおとしたが、日記にホンネを書いてうっぶんばらしをした。

島崎藤村は、「ああ、自分のようなものでもどうかして生きたい」と七十一歳まで生き続けた。初代日本ペンクラブの会長として、「ペンは武より強し」を実証することが期待されたが、その期待には応えられなかったようだ。

武力の裏づけのない契約は空文にすぎぬ

トマス・ホッブス